

儒教資本主義と功利主義的労働観

20世紀後半のアジア経済成長の背景と儒教資本主義、そして功利主義的労働観の学術的分析

2025.06.22

発表概要

- 1 背景：アジア経済と儒教資本主義
- 2 理論的基礎
- 3 西欧経済思想に与えた影響
- 4 核心的特徴
- 5 価値論分析
- 6 功利主義との比較
- 7 結論および示唆点

背景：アジア経済と儒教資本主義

20世紀後半のアジア経済の急浮上

- 中国、日本、ベトナムおよびアジアの四頭の龍（韓国、台湾、香港、シンガポール）など儒教伝統国家の世界経済制覇
- 反近代的思想として糾弾されてきた儒教が、資本主義より優れた思想ではないかという全世界的な再評価が始まる

儒教資本主義研究の世界的拡散

- 米国のエンチン研究所の杜維明、日本の森嶋通夫、韓国の咸在鳳などを中心に研究が進行
- 西洋のオリエンタリズムによって歪曲された儒教思想の優秀性が一つずつ再照明
- 儒教が資本主義の発生と発達に与えた肯定的影響に関する学術的議論が活発

儒教資本主義の理論的基礎

創造性と革新の強調

- 儒教は古臭い理論ではなく創造性を強調する思想であり、推進性の創造性を特徴とする
- 貯蓄によって作られた種を革新と創造性を通じて芽吹かせる経済観

『大学（大學）』の核心思想

「明德」（明德） - 「在新民」（在新民） - 「日新又日新」（日新又日新）

- 絶え間ない自己更新と発展を追求する発展志向的思想
- 人間の創造性と循環的革新を強調

社会的共同体精神

- 人間は万物を循環させるための共同体を成して生活する
- **最大多数の最大幸福のための構造的革新を通じた功利主義的労働観の形成**
- 儒教は生産を強調する仁（仁）と分配を強調する義（義）の調和を追求

西欧経済思想に与えた儒教の影響

歴史的影響関係

- アダム・スミスとヒューム：中国経済思想に対する研究と影響の受容
- ヨーロッパで孟子の自由主義経済思想を模倣したケネーの農業中心的資本主義

「アダム・スミスは、中国が世界の経済中心であると表現した最後の時代の学者」

経済思想の革命的転換



- 見えざる手の概念：儒教の「道（道）」から影響を受けた市場調節原理
- 儒教の循環的経済観に対する理解の不足により西欧資本主義の限界が発生
- 直線型発展（西欧）vs 螺旋型発展（東洋）：持続可能性の差異

儒教資本主義の核心的特徴

1. 重点経済活動：生産と仁（仁）中心

- 貯蓄－生産－流通－分配のうち生産を最も強調
- 孟子の仁義（仁義）のうちでも生産である仁（仁）を特に重視
- 共同体を通じた構造的革新と最大多数の最大幸福の追求

2. 国家観：人文主義的アプローチ

- 孔子の人文主義国家観に基づく
- 血縁の自発性から人文啓発の熱望へと拡張された国家概念
- 哲人国家の伝統と富国強兵を効率的に達成する体制

儒教資本主義の価値論分析

革新価値論

- 労働価値と効用価値を超える人間の創造性の価値の強調
- 儒教は絶え間ない自己革新を通じて新たな価値創造を追求
- シュンペーター：「革新が価値の源泉であり、革新なき社会は価値がありえない」

記号価値論

- 記号価値の源泉も循環にある – 流行と待対（對待）の原理
- **質的価値の側面：道教の使用価値と仏教の交換価値を儒教的記号価値へと昇華**
- 現代の後期資本主義社会は記号を生産し消費する最も効率的な体系
- 儒教資本主義の記号価値は共同体を人文化し持続可能な発展を促

功利主義との比較：長所と問題点

区分	儒教資本主義	功利主義 / ケインズ - シュンペーター
影響史	アダム・スミス、ケネーに影響	福祉国家に影響
理論	創造性の重視、日新又日新	有効需要、企業家精神
重点経済活動	生産、仁（仁）、労働	最大多数の最大幸福のための大量生産
国家観	人文主義国家観	福祉国家
社会 / 平等観	大同社会、大同の平等	集合的効率の重視
価値理論	記号価値	革新価値論
代表的思想家	孔子、司馬遷	ベンサム、ミル / ケインズ、シュンペーター
長所	共同体の人文化、革新	革新、共同体発展の契機
問題点	団体本位、画一化	個人の人権侵害、質的差別の無視
相違点	循環が功利より優先	功利が循環より優先
問題解決案	三綱五倫における弱者の尊重	少数の利益保障

結論および示唆点

儒教資本主義と功利主義的労働観の融合

- 直線型発展ではなく易（易）の循環的経済観に基づく持続可能な螺旋型発展の追求
- 中国の体制柔軟化と資本主義国家の社会保障制度強化を通じた相互補完

問題解決案と未来の課題

- 儒教の三綱五倫における弱者の利益保障および相生方案の発展
- 功利主義の集合的効率は維持しつつ、個人の権利と少数の利益保障メカニズムを強化
- 記号価値と革新価値の共存を通じた質的成長と共同体の人文化の追求
- 西欧と東洋の経済思想の融合を通じた新たな持続可能な発展モデルの構築